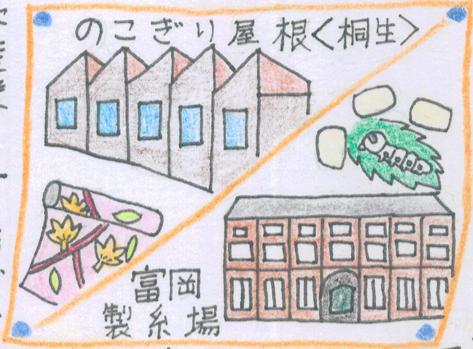


いつも くらしの そばに

外貨を得るために進められたのは、生糸生産の機械化産業です。鉱石・織物などもこうした産業の発展と人々の暮らしの向上が重な地域をつなぐ電車の必要性が生まれました。上信・上毛電鉄が生じたのである。



近代化が進む大正時代、今の群馬県の地域では、各地でいろいろな産業が発展し、人々のくらしが豊かになつていきました。

A hand-drawn map of Nagano Prefecture, Japan, with a yellow background and a red outline. Two black dots represent locations: '上毛' (Ueda) on the northern tip and '上信' (Kita-Shinshu) on the southern shore of Lake Suwa.

上毛電鉄のはじまり

THE 民 新 門 in 羣 島

H28.9月21日
桐生市立南小学校
6-2
松倉 結



エコも取り入れ ますます便利な上毛電鉄

毎日電車を利用する通勤・通学の人をはじめ、レジャーなどで利用する人々に大好評で、目的にまで公共交通を利用して目的地まで公共交通を利用することでの環境にやさしくエコ活動につながりますね。また、「サイクルトレイン」というサイクリングもあります。自転車を電車内に無料で持ち込みます。地域の人々が電車内に無料で持ち込みます。地域の人々がアウトドアを楽しむ人々に人気があります。



サイクルトレイン体験 西桐生駅で



電車は、昔から今まで、
とても重要な役割を果たして
いたことが分かりました。電
車を「これから
たくさん使い、
エコになんば
次世代にも受け
つけがれてほしい
と思いました。

人々の熱い思いを 乗せて上信電鉄

開業。この駅は、地元の人々の熱い要望から生まれた新駅です。高崎市によると、公共交通をもつと便利にすることと、高齢者を含む地域の人々の移動手段を確保し、エコ活動にもつなげたい。という狙いがあるそうです。

この新駅設立では、駅名や入場門、イラストパネルのデザインなどを地元群馬県内の小中学生から公募して作りました。

地域の人々の思いと若い人たちのアイデアで生まれた新駅は、私たちのくらしを支える上信電鉄の新しいシンボルになります。



お富ちゃんと  佐野のわたし駅



佐野のわたし駅